

厚生労働省科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））
分担研究報告書

F-SOAIP を用いた記録システムの使用感の評価について

研究代表者 上田敏丈 名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授
分担研究者 小嶋章吾 国際医療福祉大学 医療福祉学部 教授
分担研究者 畠末憲子 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授
研究協力者 中村聖子 大倉山元気の泉保育園 園長

研究要旨

本研究では、作成した配慮や支援の必要な保護者の情報を共有するツール（パイロット版）について実際に使用した園長の聞き取り調査からその評価とさらなる展開の可能性を明らかにすることである。

本システムのパイロット版を約6ヶ月使用してもらい、フィードバックを得た。保育園の園長には2022年10月に、インタビュー調査を行った。

その結果、F-SOAIP に基づく記録の有効性として、プロセスの整理がなされること、情報の共有が図られることが明らかになった。また、さらに、本システムを用いることで、F-SOAIP のFのみを抽出し、長期的な記録とできること、また、外部の関係者からコメントを得ることで、F-SOAIP 記録を媒介とした簡易なカンファレンスができる可能性が証明された。

A.研究目的

本研究は、昨年度の研究において、作成した配慮や支援の必要な保護者の情報を共有するツール（パイロット版）について、実際に使用した園長から、使用の効果と今後の展開についてのフィードバックを得ることである。

F-SOAIP とは、医療・福祉領域において活用実績のある項目形式の経過記録法の一つであり、F-SOAIP 公式HPによれば、「多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活モデルの観点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、F-SOAIP の項目

で可視化し、PDCA サイクルに多面的効果を生むリフレクティブな経過記録の方法（Ver.4, 2019年11月）」と定義されている。

F-SOAIP は、次の6項目を使用する。①F：Focus（着眼点）ニーズ、気がかり等。タイトルのようにその場面を簡潔に表現する。②S：Subjective Data（主観的情報）利用者（キーパーソンを含む）の言葉。③O：Objective Data（客観的情報）観察・状態や他職種から得られた情報、環境・経過等。④A：Assessment（アセスメント）援助者（記録者本人）の判断・解釈。気づきや考え。⑤I：Intervention/Implementation（介入・実

施) 援助者(記録者本人)の対応。支援、声かけ、連絡調整。⑥P: Plan(計画) 当面の対応予定。

B. 研究方法

A保育園の園長に、2022年10月、保育記録システムを活用しての評価について、約30分間のインタビュー調査を行った。本システムをA保育園において任意に試用してもらった。約半年間の活用では、前半4ヶ月を試行版システムについて試用してもらい、フィードバックを得た。

C. 研究結果

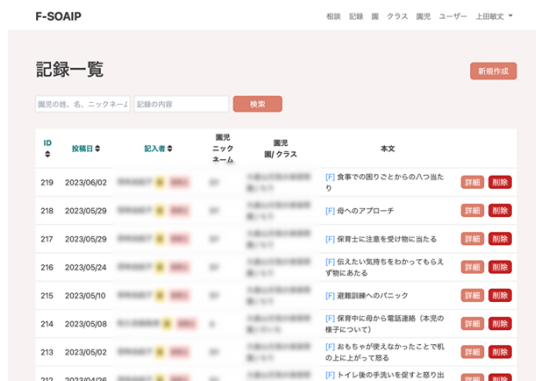
1) システムの概要

記録システムは次のアドレスにおいてある(<https://fsoaip.flares.jp/home>)。本システムは、二段階認証となっており、利用時に申請したメールアドレスでログインするが、ログイン時に、当該メールに暗証番号が届くようになっている。

認証が確認された後、下記のメニュー画面へと遷移する。



各園ごとの記録一覧については、以下のように表示される。



また、個別の記録については、次の通りである。



2) システムの評価

(1) 情報の整理と共有の可能性

従来の手書きノートの記録と異なり、本システムを用いることで、誰が書いているのかがわからないこと、誰かが書いているとそれを使用することができない、といった困難さがなくなったことが報告された。

F-SOAIIP に基づく記録を用いることで、園内の保育士による事例の共有が簡便になったことが述べられた。

語り 1: 実際は共有されているのかわからないし、フィードバックがノートの場合はないので。書くことで整理はされてもこう満たされ感っていうか、次への指標みたいなものを得られないまま続けていくけど、これだと書くことで整理されるのは同じなんだけど、その共有されてる感があるので、書きがいがある。その日に、すごい困って、ほんとにどうしたらいいかわかんなかったこととか、こんな展開になっちゃって、どうしたらいいんだろうとか思うことが、誰かには共有されてるっていうのは、こう安心感につながっていい。

(2)F-SOAIP による記録の有効性

特に、F-SOAIP 記録を用いることで、項目によるプロセスが整理されること、F のみの一覧化によって、長期的な変化の可能性が読み取れることが報告された。

語り 2: F-SOAIP で言えば、O だけを書いてたんだけど、項目があるので、その実際の言葉とかを、敏感に拾うようになったし、言葉そのまま書けばいいからかう書く煩わしさが少ない。項目の A があるから、その意図とか感じたこととかも書く項目があるから書いてもいいんだっていう風に考えられる。

語り 3: 配慮の必要な保護者っていうのがフォーカスなので、そういった難しいケースを A があって、それを共有することでうんちょっと対応みたいなのも変わるという感じですかね。

(3)外部との連携のしやすさ

F-SOAIP による記録を用いることで、外部の心理師や助言者から、コメントを得る際の情報共有が便利になることも報告された。

語り 4: あとは、もちろん、具体的にその自分の専門性とは違った専門性の人からコメントとかもらえれば、それがすごいヒントになるヒントになる。

この点については、特に困難さを感じる事例について、園外の専門家と繋がることで、適切な対応方法の助言を得ることができ、保育士による適切な子育て支援が可能になることが想定される。従って、今後の課題として、これらも展開できるシステム構築が求められるだろう。

D.考察

本システムを用いることで、F-SOAIP による項目の整理および共有のしやすさの可能性が示唆された。

また、特に F-SOAIP を用いることで、その場面を見ていない人も場が想定しやすいことがあげられる。

このことは、記録システムを媒介として、外部の専門家と繋がること、その際の情報共有の可能性として使用することができるだろう。

しかしながら、システムとして、UI が洗練されていくことが求められることから、今後、さらにシステムの使いやすさも構築することが求められるだろう。